







# 鳥取西部 震度6強



地震で建物の半分が崩れ落ち、内部がむき出しになった上道神社。6日午後4時30分、鳥取県境港市上道町で、本社へりから

## 「阪神」並み 推定M7.3

## 330戸損壊 43人けが

大正後、前半(中、四国)近畿地方を中心に西日本が震度6強、被害は甚大。鳥取県境港市上道町の建物が、西側、南側、東側と崩壊し、屋根はほぼ全壊。被害は約35・3度、東部三三三度の被害は約1・5度。中、四国、近畿地方三層以上の建物が倒壊し、四十人以上がけがをした。被害は、地震発生から一時間、高層ビルが倒壊し、米子港が停航するなどの交通機関、水道、ガスが止まる被害が出た。内陸部では地震しては、震度の最大震度、最大被害。

鳥取県境港市の上道町。6日午後9時現在で、中、四国、近畿地方で四十三のけが人が報告された。うち鳥取県が十五人、最も多く、岡山県一人、大津市一人、広島県三人、大



各地の主な震度

震度	震害
震度7	鳥取県境港市上道町
震度6強	鳥取県境港市上道町
震度6	鳥取県境港市上道町
震度5強	鳥取県境港市上道町
震度5	鳥取県境港市上道町
震度4	鳥取県境港市上道町
震度3	鳥取県境港市上道町
震度2	鳥取県境港市上道町
震度1	鳥取県境港市上道町

## 硬い地盤で 揺れ小さく

鳥取県境部の地盤は、硬い。今回の地震は、鳥取県境港市上道町で、震度6強、被害は甚大。鳥取県境港市上道町で、震度6強、被害は甚大。鳥取県境港市上道町で、震度6強、被害は甚大。

鳥取県境部の地盤は、硬い。今回の地震は、鳥取県境港市上道町で、震度6強、被害は甚大。鳥取県境港市上道町で、震度6強、被害は甚大。鳥取県境港市上道町で、震度6強、被害は甚大。

鳥取県境部の地盤は、硬い。今回の地震は、鳥取県境港市上道町で、震度6強、被害は甚大。鳥取県境港市上道町で、震度6強、被害は甚大。鳥取県境港市上道町で、震度6強、被害は甚大。

鳥取県境部の地盤は、硬い。今回の地震は、鳥取県境港市上道町で、震度6強、被害は甚大。鳥取県境港市上道町で、震度6強、被害は甚大。鳥取県境港市上道町で、震度6強、被害は甚大。

鳥取県境部の地盤は、硬い。今回の地震は、鳥取県境港市上道町で、震度6強、被害は甚大。鳥取県境港市上道町で、震度6強、被害は甚大。鳥取県境港市上道町で、震度6強、被害は甚大。

鳥取県境部の地盤は、硬い。今回の地震は、鳥取県境港市上道町で、震度6強、被害は甚大。鳥取県境港市上道町で、震度6強、被害は甚大。鳥取県境港市上道町で、震度6強、被害は甚大。

鳥取県境部の地盤は、硬い。今回の地震は、鳥取県境港市上道町で、震度6強、被害は甚大。鳥取県境港市上道町で、震度6強、被害は甚大。鳥取県境港市上道町で、震度6強、被害は甚大。





# 余震369回、2500人避難



## 鳥取県西部地震

# けが125人、5268棟損壊

# 米子空港11日にも再開

震度4強を記録した鳥取県西部地震の被災地は、7日も余震が断続的に発生し、鳥取県や島根県では計二千五百人が避難所で不自由な生活を送っている。警察などの捜査作業が進むにつれて被害は拡大し、午後九時現在、けが人は中国、四国、近畿地方の九府県で百二十五人、損壊した家屋や公共施設などは軒数も含めて六府県で五千二百六十八棟にのぼった。鳥取特産のナシが大量に壊れ、農業にも被害が出ている。一方、滑走路の閉鎖が続いていた米子空港は十一日にも再開される方針が固まった。(27・30・31面に関係記事)

鳥取県で公民館などに避難している住民は、七日午後六時現在で計二千三百三十一人。住民に自主避難を呼びかけた西伯町では引き継ぎ、集会所や保育園など十九カ所に千八百人余りが避難している。島根県西伯町では、老年福祉センターを校舎に決めた、鳥取県でも伯太

鳥取県米子市と隣接する約六百カ所が水道管が破裂したが、約半数が復旧した。七日午後六時現在、県内で約七百九十世帯が断水している。岡山県では約六百六十世帯が断水し、給水車が出勤した。鳥取県は小、中、高校など計百二校が七日、臨時休業を決め、鳥取県でも伯太

### 地震による被害

府県	負傷者(人)	建物損壊(棟)
鳥取	89	2801
取山	17	540
根島	8	1912
阪川	3	11
山和	3	0
大香	2	3
兵和	1	0
山和	1	1
計	125	5268

〔7日午後9時現在〕  
〔本社まとめ〕



大きな被害を受けた境漁港の岸壁。ベニズワイガニは水揚げされたが、業者がそろわず、せりには中止された。7日午前7時55分、鳥取県境港市で

中国管区警察局長によると、道路は七日午後六時現在、鳥取、岡山、島根の三県の計百二十八カ所で亀裂などの被害が出ており、一部区間で通行止めになっている。

# 埋め立て地のもろさ露呈



液状化で水が噴き出し、路面は水浸しの竹内工業団地—境港市竹内団地

## 境港・竹内工業団地

### 泥水あふれ、波打つ路面： 激しい液状化現象

埋め立て地の境港市竹内工業団地では、地中の砂交じりの水が路面の亀裂からあふれ出す液状化現象が見られ、路上に土砂がたい積したり、道路のあちこちで路面が波打っている。市内の中でも被害のつめ跡の大きさが目立つ。観光拠点や企業誘致を目的に整備された同団地にとって、地震に対するもろさが露呈してしまった。

同団地は、昭和四十九年成した。工業用地は、四十九は、夢みなとタワーや境から平成二年まで十七年を九彩が分譲済みで七十九社 港さかなセンターなど集客かけ、美保湾を埋め立て道が用地を取得。観光面で力を誇る施設が整備されて

震度6強の地震に見舞われた漁業基地・境港の水産加工会社では八日も、従業員らが工場設備の復旧や液状化現象でわき出た泥水の処理などに追われた。地面の液状化が激しかった竹内団地で、ベニズワ

### 水産加工会社 設備復旧へ全力 泥処理に終日追われる

イガニなどの加工を手掛ける友田水産も建物の周囲が泥で埋まった。七日に続き八日も、従業員約四十人に清掃会社の社員が加わり、フルドザーやポンプ車での泥の撤去に当たった。

今年九月に移転したばかりの新工場(約四千六百平方メートル)の建物や設備に大きな損傷はなかったが、断水のため地震直後の六日から生産中止中。友田博専務は「嘆いてみても仕方がない。幸い生産設備に異常はなく、水が出たので操業したい」と話した。

大伸水産(境港市昭和町)の本社工場では、エンジン駆動の冷蔵庫(収容能力八千トン)にA重油を添え込み、直径六センチの鉄製パイプが破損。亀裂から油が漏れ出したため、冷蔵庫の稼働を停止。八日午後の修復まで、扉を閉め切ることで対応した。また、八日の午前中まで断水状態が続いたため、地震発生後、生産ラインは停止したまま。連休明けの十日から操業を再開する予定という。

液状化現象で、建物の周辺や駐車場に亀裂や泥水が湧った境港さかなセンターは、約五十社の旅行代理店に七日の休業をフックスで通知。連休中は、一日当たり三千人の人出を見込んでいただけに、大きな損害を被った。同センターの榊藤勝専務は「竹内団地への進出を後悔している場合ではない」と、目前の対応に

追われていた。平成元年六月、同団地の初進出企業となったカワバタ印刷(川端広社長)は、今回の地震で、印刷工場(約千五百平方メートル)が破壊され、現状での操業再開は不可能となった。印刷機は精密度が高いため、水平な場所でない印刷は不可能。同社の工場は、液状化で床のコンクリートが波打ったように変形したほか、鉄骨造りの工場の天井と側面にひび割れが生じ、修復では対応できない状態になった。



地震で破損した冷蔵庫用の燃料パイプを修復する作業員—境港市昭和町、大伸水産本社工場

# 境港水産に活気戻る

## 加工業者 連日100トン水揚げ

鳥取県西部地震の被害を受けた全国有数の漁業基地・境港が、地震発生から六日目の十一日までに、徐々に活気を取り戻している。善き網漁船が連日、一トント前後を水揚げするなど、漁獲量は順調に推移。震災前の好調を待たしている。加工業者の復旧はこれからだ。

境港は地震が直撃。岸壁の一部が陥したり、後背地で水産加工業者の製造ラインや建物などが打撃を受けた。

使用可能な岸壁は主力のカニかまぼこ約半分。水運会船前やイカ岸壁、

昭和町の商港地区も使って、入港順や荷揚げ作業を工夫しながら対応している。

鳥取県境港水産事務所によると、荷揚げ場所を撤出し、イカを中心、十日九百を業者間で協力し合い、荷一トント、十一日二千八

に動いている。心配された水揚げは、蓋き網が六日から三日間、操業を停止。九日から出漁を再開した。漁獲はカタクチ

揚げ作業は、ほぼスムーズ。揚げ作業は、ほぼスムーズ。

好漁の目安一トント前後の水揚げを記録している。ベニズワイも十日、十一日も三隻入港。四日に各二千四百斤(約三十キ)

二日に記録した二千三百六十斤の大漁以降、コンスタントに一トント前後の水揚げがあり、震災の



震災以降も境港の水揚げは好調。ベニズワイガニの荷揚げをテキパキと進める作業員—境港市昭和町

影響は少ない」と県水産事務所の山本達雄所長。関係業者の早急な復旧が待たれる。

## 被災者生活再建支援法

# 境港、米子、日野に適用

## 県西部地震

## 1世帯 100万円限度に支給

県は十一日までに「被災者生活再建支援法」の適用を境港町、米子市、日野町にすると決めた。家財全壊などの被災者に対し、一世帯当たり百万円を限度に支給金を支給する。同法の規定を満たさない他の町村被災者について、県は町村と協力して同様の制度を設ける方針。

今回の地震で全壊した一世帯は十一日午後四時現在、境港市が六十一世帯、米子市十四世帯、日野町十六世帯、三市町の場合、同法規定の「十以上の世帯の住宅が全壊した市町村における自然災害」を越え、支援金が支給される。支給金は、五歳以上の世帯もしくは要支援対象は全壊、半壊の

以上八百万円以下で六十歳以上の世帯もしくは環境保護世帯の場合、複数世帯、単一と定めているため、三市町数世帯とも各半額ずつ支給される。

十一日、「災害救助法等市町村担当課長会議」が米子市東福原二丁目、県西部健康福祉センターであった。災害救助法が適用された米子、境港、日野、会員日野海町の各市町の担当者を集め、県が同法の概要などを説明する狙い。



市町が同じテーブルで、会合を持つことで、他自治体の対応や悩みが分かることは、担当者にとってありがたい部分もある。約二十人が出席したが、会場までの移動、会議の時間を合わせれば半日仕事。災害復旧で疲れている中、遠方から時間外に「最終的な判断には気の毒にも思えた。日野町の判断が象徴的だった。」

(仮名)

# ごみの山どうしよう

市の境港清掃センター

## 1日120トン持ち込み 処理能力の2倍、妙案なし

鳥取県境港市は鳥取西部地震で大量のごみが発生している。市清掃センターなどの処理能力を大幅に超えた量で、稼働時間を深夜まで延長して対応しているものの追いつかない状況。まだ全半壊した家屋の後片づけも残されており、今後さらにごみが増えることが予想される中、市は最終的な処分方法に妙案がなく頭を悩ませている。



「ごみの山」が目立つことと大きくなる境港市の災害廃棄物仮置き場

同市は日常的に出る可燃ごみを市清掃センター、不燃物を市リサイクルセンターの順に地震の翌日の七日、設

### 出雲大社は無事です

鳥取西部地震で、鳥取県境港市の一出雲大社・上道教会が倒壊したことを、「出雲大社（鳥取県大社町）が壊れた」と誤解した風評が広まり、山陰地方への旅行のキャンセルが相次いでいる。秋の行楽シーズンを前に事態を重くみた鳥根県の観光関係者らは十三日、東京、名古屋の大手旅行代理店を訪れ、訂正のPRを行う。

鳥取西部地震で、鳥取県境港市の一出雲大社・上道教会が倒壊したことを、「出雲大社（鳥取県大社町）が壊れた」と誤解した風評が広まり、山陰地方への旅行のキャンセルが相次いでいる。秋の行楽シーズンを前に事態を重くみた鳥根県の観光関係者らは十三日、東京、名古屋の大手旅行代理店を訪れ、訂正のPRを行う。

大社観光協会には、同教会の倒壊を報じる新聞やテレビを見た観光予定客らから、「出雲大社が壊れた」というのは本当か」との問い

松江観光協会の高木弘宣事務局長は「観光客は前年の五割以下に落ち込むひどい状況。被害額など考えたくもない」として、PRに全力を尽くしている。

一で処理している。地震発生以降、清掃センターには連日、一日処理能力の約二倍に当たる百二十トンの持ち込み、不燃物についても同様だ。

置いた災害廃棄物仮置き場にも大量のごみが持ち込まれている。広さ約六千平方メートル。ブロックなどのコンクリート類と不燃物、可燃物の三区画に分けている。トラック四百―五百台が連日、建築廃材をはじめ、壊れた食器類や花瓶、家電品などを搬入している。十日までの四日間で約六百五十トンのぼった。

同市では十二日現在、住宅の全壊六十一棟、半壊八十三棟。これらの大半はまだ後片づけの手が付けられておらず、復旧が本格化すればさらにごみの量が増加しそうだ。

市は「日常的な可燃ごみだけでも処理能力がいっぱい。稼働時間を延長して処分するしかないが、いつ終わるのか予想もつかない。不燃物のすべてを業者委託とすれば数千万円の経費がかかる。財政難のなかでその予算の目途もない」と対応に苦慮している。

# 大半が住居関連

## 境港・米子の災害相談

鳥取県西部地震で大きな被害が出た境港市の「地震災害総合相談窓口」は、開設から三日間で二百人以上の市民が相談に訪れている。そのほとんどが住居に関するもので、借家に住んでいた被災住民が大家から立ち退きを求められ、新たな住居を探さなければならなくなったケースも出ている。一方、米子市では境港市ほどの相談件数はないが、家屋の危険度判定の要望が相次いでいるという。

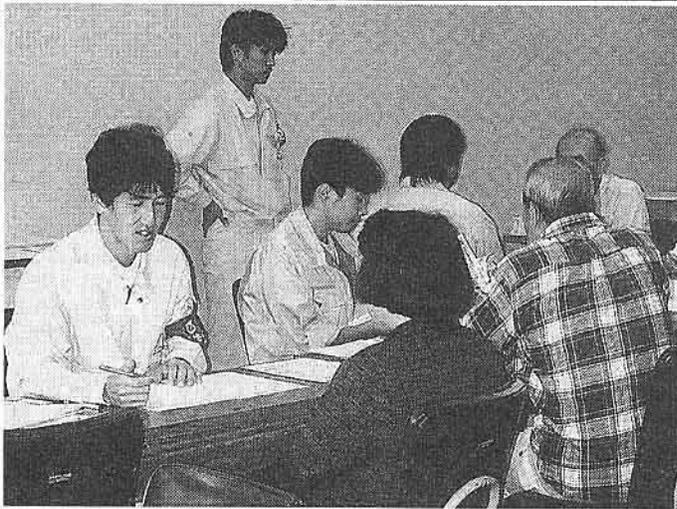
境港市では十日の開設以来、相談に訪れた市民は、十二日現在で二百十六件。電話相談は六十七件。生活資金や税金などの相談もあるが、窓口を訪れた人のうち二百二件が住居に関する相談。倒壊した建物の取り壊しや住居の応急危険度判定などの依頼が多いが、中には借家や古いアパートがつぶれ、大家から立ち退きを求められ「転居先のアてがない」という相談もある。

度判定で「危険」と判定された借家に住んでいた市内の六十代の男性もその一人。大家から「市営住宅でも考えてください」と言われ、窓口で相談。市の用意した公営住宅に入居が決まった。

同市では、被災者のために公営住宅二十一戸を確保し、入居を呼びかけており、十二日正午までに八戸が入居予定で、十三戸が空いている。

ただ、相談窓口に来る市民は比較的元氣な人が多く、避難所などに残る

高齢者の心配も残っている。一日に災害救助法相談窓口を開設して以来、市民から住宅の応急措置などに



多くの市民が相談に訪れている境港市の「地震災害総合相談窓口」

十二日には建築指導室に住宅相談窓口を設置し、十三日までに約四十人が被害相談に訪れた。全壊した家屋について、市は市営住宅の空き部屋をあっせんしており、十三日までに七人が申請。自宅の崩壊の危険度が高い高齢者からは「建て直しの資金繰りが難しい」との声が寄せられ、市では低利融資を勧めているという。

また、家屋の被害状況を確認しようと、家屋の危険度判定の要望が相次いでおり、市では十四日から応急危険度判定士を市内全域に派遣し、家屋の危険度調査の相談に応じるという。

# 住宅解体費を公費負担

## 境港市 全半壊の144軒対象

境港市は十四日、全半壊した住宅解体費用の公費負担を決めた。この日から市職員が対象家屋を回り、現状把握と制度の周知徹底を図った。

被災した家屋の解体は、所有者責任が原則。しかし阪神大震災では、負担軽減のため廃棄物として市町村が処理、国は解体を含め、処理費用を半分補助する特

例措置を設けた。今回の地震で、県は国に特別措置を求める一方、措置がない場合には県単独の

補助をする方針。これを受けて同市は、全半壊した百四十四軒を対象に同日、市職員が個別に訪問、説明し

た。公費解体の申し込みは、十七日から三十一日まで。既に解体した場合は、救済措置を検討している。ただ十五日以降、個人が業者と契約して解体、費用を市に請求しても公費扱いにならない場合もあるという。問い合わせは、同市環境防災課(電話47・1060)。

## 3社に1社が大打撃

### 境港の水産加工 被害中間まとめ

鳥取県西部地震で、境港市の水産加工業三社に1社が大打撃を受けた。境港水産振興協会(和田卓一郎会長)の被害調査中間まとめで分かった。

調査票は、水産加工、仲卸、荷受けなどを百三十七社に、地震翌日の七日に発送。六十六社が十二日までに回答した。被害状況では「被害が甚し」は十四社あり、被害に

格差があった。不明回答は1社。被害総額では、三千万円以上が三社、千万円以上は五社、被害額ゼロは十四社。被害規模が大きく、現時点で不明と回答した企業も十四社ある。協会では今後、被害額を膨らんでくる」と



全半壊住宅の解体で公費負担制度を説明する境港市職員(右側2人)——境港市京町

# 鳥取県西部地震

## 住宅再建へ公的補助

### 県全国初300万円を上限

鳥取県は県西部地震で住宅が全半壊、一部損壊し、建て替えや補修が必要となった世帯を対象に、全国の自治体では初めて公的補助制度を導入する。建て替えの限度額は三百万円とする方針で、県が三分の一、市町村が三分の一を負担。市町村と相談した上で早急に予算案を組み、十一月初旬の臨時議会に諮る。

建て替えの場合、補助五十万円。負担割合は五割の適用は、居住していた市町村での建設が条件と市町村が半分ずつ、五十万円。補修の限度額は百



町村、本人が三分の一ずつを負担する。県災害対策本部がまとめた十七日現在の住宅の被害状況は、全壊百二十三戸、半壊二百四十八戸、一部損壊三千二百二戸。県は今後、住宅を再建する世帯数を調査し、市町村が主体となって補助金を交付する。片山善博知事は住宅再建への公的補助導入について「今回の震災では中山間地の高齢化率が高い地区が大きな打撃を受けた。資金力、気力の面で今後の生活に不安を感じている方が多いが、地域

鳥取県西部地震で倒壊した米子市内の民家 6日午後3時30分

を支えてもらうため特例」と説明した。措置を講じることにし、日野町では、全半壊が



参院災害対策特別委員会のメンバーが彦根市・中海干拓を視察する。現象が表れた中海干拓・彦根工区を視察する参院災害対策特別委員会のメンバー

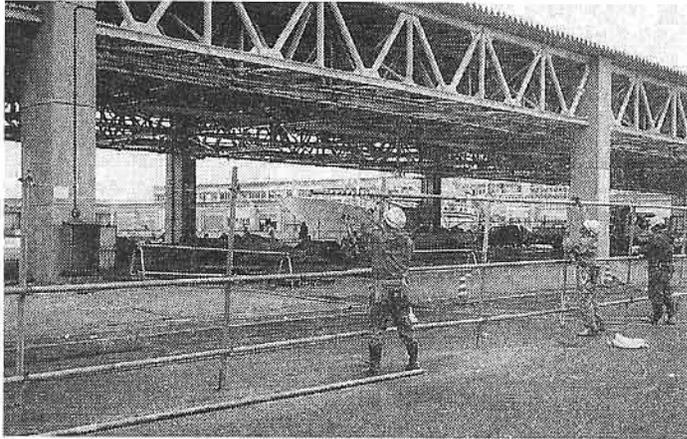
### 境港の漁港など視察

参院災害対策特別委 一行8人が県入り

鳥取県西部地震の被害の一行が十七日、鳥取県海干拓・彦名工区などを状況視察するため、参西部と鳥根県東部を訪見て回った。白浜一良参院災害対策特別委員会、境港の港湾施設や中

六十六戸、一部損壊が三百四十四戸にも上り、町財政の圧迫が懸念されている。市町村負担の軽減について片山知事は「特別交付税を十分に確保する努力をしたい」と話した。補助の財源として県は一般財源に加え、基金を充てる考え。県の主な基金は減債基金五百八十一億円、財政調整基金三十九億円がある。阪神淡路大震災後の平成十一年四月から導入された被災者生活再建支援制度では、自然災害によ

半、米子空港に到着。同空港で境港市の黒見哲夫市長が「港湾や漁港など山陰両県の産業基盤が大変な被害を受けた。復旧に国の支援をお願いしたい」とあいさつし、鳥取県の平井伸治総務部長が災害の概況を説明した。視察団は施設が大きな被害を受けた境港の漁港、港湾や液化化現象が顕著な竹内工業団地と米子市の中海干拓・彦名工区、施設が破損した西伯町の賀祥ダム周辺施設などを視察。白浜委員長は「農業、漁業に大きな影響が出ており、全般にわたる災害復旧をしないといけない」と話していた。



本格的な復旧工事に向けてフェンスの基礎くいを造る人たち

# 地震被害の「カニかご岸壁」 復旧工事始まる

境 港

鳥取県西部地震で岸壁がせり出したり、亀裂が入るなどの被害を受けた

境港市昭和町の通称・カニかご岸壁で、復旧工事の

フェンス造りが始まった。二十九日からは岸壁上屋の一部解体工事に入り、年内に新上屋を建設する。三月からは東側海

域にせり出した岸壁の復旧工事に入り、来年度末までに完了させる。

カニかご岸壁は、県営魚市場の西側に突き出した延長二百メートル、幅八十一メートルの岸壁。先の地震で岸壁の東西両側の矢板をつなぎ止めていたボルトがはずれ、岸壁の東側が海側に約一メートル曲り出している。このため、岸壁の一部が使えず、最盛期のカニかご漁の水揚げに一部支障が出ている。

安全のためのフェンスを今週中に設置。来週からはカニかご岸壁の上屋の一部の解体撤去工事を三月末までに行い、三月から十二月にかけて新しい上屋を建設する。わん曲した岸壁の矢板の打ち直し工事も三月には発注される。来年度内にはカニかご岸壁の復旧を終える。以降は、他の水揚げ岸壁の復旧工事に順次取りかかる。

カニかご岸壁の復旧費用は、県のまもめで上屋が約十億円、岸壁が約五億円となっている。

復旧工事では、工事の

一部、二〇〇二年度中には延長千二百メートル(被災八百メートル)ある岸壁のすべてが使えるようにする。現在八〇%の岸壁が使用可能。

# 平成12年鳥取県西部地震 境港市の記録

平成14年3月発行

編集・発行 境港市産業環境部環境防災課  
〒684-8501  
鳥取県境港市上道町3000番地  
TEL0859-44-2111 (FAX44-3001)

印刷 (株)カワバタ印刷

